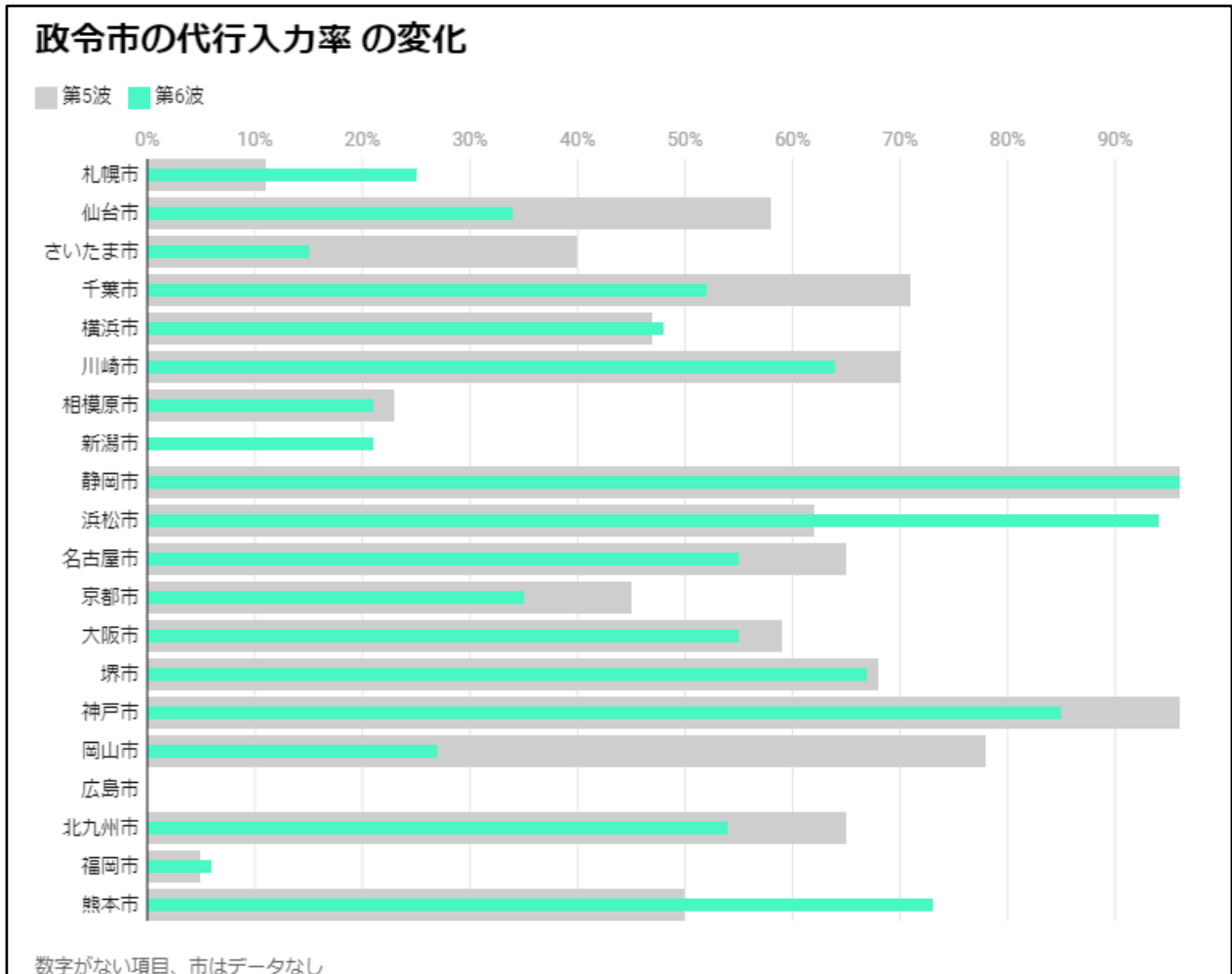


第5波、第6波でこう変わった…政令市・都区部の患者発生情報代行入力率

2022/5/17 読売新聞

読売新聞は今年3月～5月、全国の20政令市と東京23区の計43自治体に対し、第5波ピーク時の1週間（昨年8月16日～22日）と、第6波で感染者が1日5万人超だった1週間（2月28日～3月6日）の届け出状況を調査。広島市と東京都台東区を除いた41市区から回答を得た。



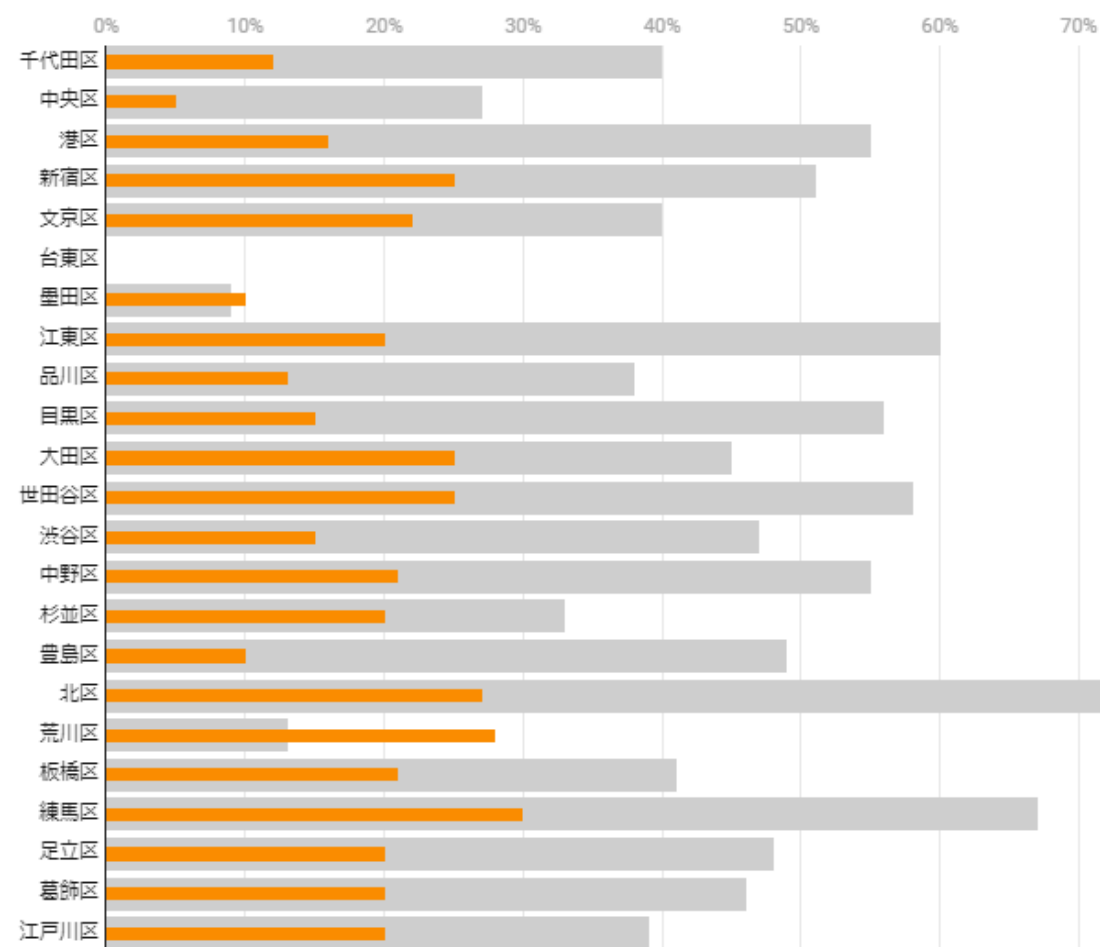
この結果、第6波では、回答があった19政令市の感染者総数（約11万2000人）のうち49%にあたる約5万5000人分は、ファクスや持ち込みで提出された。第5波も53%で、紙の解消は進んでいない。

代行入力の割合が最も高かったのは静岡市の96%で、浜松市（94%）、神戸市（85%）、熊本市（73%）が続いた。市側は医療機関の直接入力を求めているが、医師らはパソコンの扱いに慣れていないことなどから協力が得られていない。

一方、東京の22区は、第5波は平均で46%だったが、第6波には20%に半減した。東京都は今年1月、代行入力を解消するため、医療機関に対して協力金の支給を始めており、ハースス入力が進んでいる

東京区部の代行入力率の変化

■ 第5波 ■ 第6波



台東区は未回答